



Title	北海道東岸沖合に於ける鮭鱒流網漁業試験に就て(昭和24 ~ 26年)
Author(s)	藤井, 武治; 鈴木, 恒由; 西山, 作藏; 阿部, 茂夫; 山本, 昭一
Citation	北海道大學水産學部研究彙報, 3(SPECIAL), 1-9
Issue Date	1953-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/22772
Type	bulletin (article)
File Information	3(SPECIAL)_P1-9.pdf



[Instructions for use](#)

北海道東岸沖合に於ける鮭鱒流網漁業

試験に就て

(昭和24~26年)

藤 井 武 治

鈴 木 恒 由

西 山 作 藏 阿 部 茂 夫 山 本 昭 一

緒 言

おしよる丸(当時總噸數 521.59 噸)は前船長櫻庭誠三(現函館海難審判廳審判官)指揮のもとに遠洋漁業學科四年目學生の漁業及び航海實習を兼て漁撈, 海洋, 魚體, 及び浮游生物の調査を計劃し本學關係教官の御協力を得て綜合的調査を繼續實施したが茲には昭和24~25年度に於ける關係分を集録した。

本調査に當り御協力された諸教官及び全般に亘り御指導を戴いた武田前學部長, 川崎漁業學科長並びに齋藤遠洋漁業學科長に對し深甚なる謝意を表する。

尙調査の分擔は下記に依り行つた。

- | | |
|-----------|---------------------------|
| I) 船内一般 | 藤井一航 |
| II) 漁撈試験 | 藤井一航 鈴木次一航 阿部二航 山本三航 西山教官 |
| III) 海洋調査 | 小藤教官 鈴木次一航 |
| IV) 魚體調査 | 佐藤教官 五十嵐教官 小林教官 藤井一航 |
| V) 浮游生物調査 | 田村教官 藤井一航 |

第 1 章 計 劃

學生の實習に主眼を置く關係上、漁撈作業より製造過程に亘る一貫作業は「おしよる丸」を母體として實施し編成は下記の如くである。

母 船 おしよる丸, 總噸數 521.59 噸, 純噸數 267.08 噸, 機 関 デーデル
450 馬力, 速 力 8 節

附 屬 漁 船

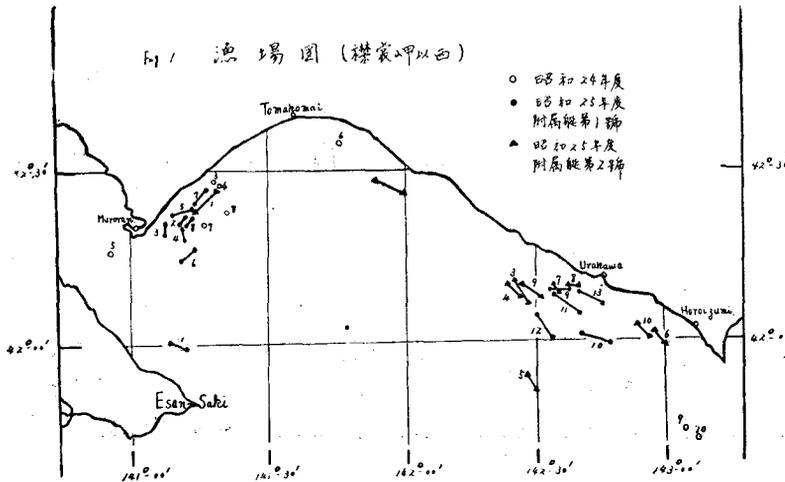
- | | |
|--------------|---|
| I) 昭和 24 年度 | 總噸數 3.5 噸 (長さ 27 尺幅 7 尺深さ 4 尺), 機 関 電氣着火 15 馬力 |
| II) 昭和 25 年度 | 附屬艇第 1 號 總噸數 15 噸, 機 関 燒玉機関 25 馬力, 速 力 6 節
使用反數 50 反 |
| | 附屬艇第 2 號 總噸數 15 噸, 機 関 燒玉機関 40 馬力, 速 力 8 節
使用反數 50 反 |

調査の實施については漁獲作業は附屬漁船之に當り母船は附屬漁船との連絡上支障のない限り出來得る範圍の海洋觀測を行い附屬漁船の操業を合理化ならしめ且出漁後は時間を定めて無線電

話連絡をなし海況その他についての連絡を行い漁獲に偏重することなく飽迄も観測結果に基く操業を試みた。

第2章 調査海區，期間並びに供試漁具

調査海區 初年度即ち昭和24年度は海洋観測等の都合に依り當初室蘭港を根據とし順次漁期の



進展に伴い浦河、廣尾港と東進し盛漁期には釧路港を根據となし得るよう計画實施したが次年度よりは直接釧路港若しくは浦河港を經由して釧路港へ赴くようになっている。

尙此の道東海區の調査に関連して鮭鱒漁況に大なる影響を持つと思料される漁期以前の三陸沖合の諸調査を實施することになつてい

る。操業海區及び地點を示したものが第1～2圖である。

調査期間 從來此の道東海區に出漁する鮭鱒流網漁船は主として5～6月で終漁は7月中旬の頃となつている。本船も此の時期を選び調査を實施した。尙年度別に見れば次のようである。

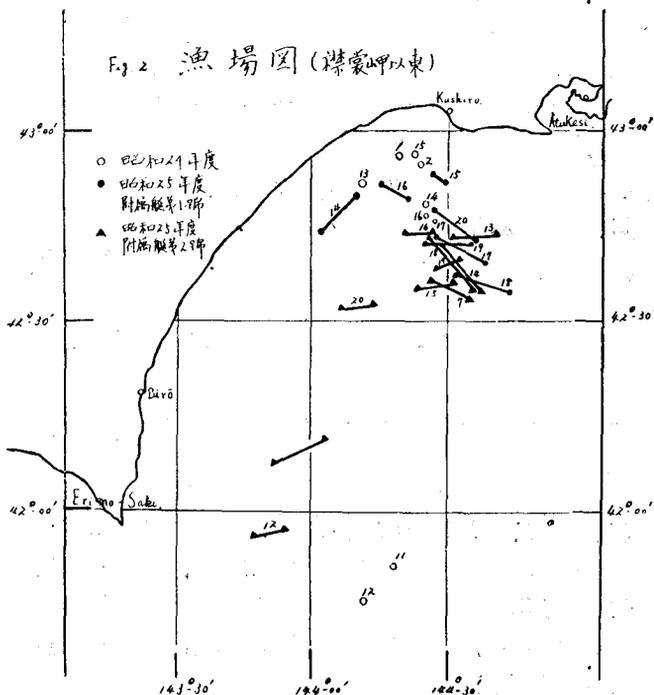
- I) 昭和24年度 自5月21日 至6月27日
- II) 昭和25年度 自4月30日 至7月2日

供試漁具

- I) 網地
身網、ラミー17番5本子、4.2寸目48目掛編下し714目(60間)
縁網、浮子方 綿糸12號半目 15號半目 12號半目
計 15目

沈子方、綿糸24號半目 15號半目 12號半目 計 15目

口編、綿糸12號を以てラミー網に直接添え編み更に18號を以て1目おきに編添える。



II) 棚網 浮子方、マニラ岩糸 12 匁 2×3 子左右撚各 1 本宛

網付長さ 31 間
 両端手捧各 2 尺) 計 31.8 間

沈子方、マニラ岩糸 18 匁 2×3 子左右撚各 1 本宛

網付長さ 30 間
 両端手捧各 2 尺) 計 30.8 間

III) 浮子 桐材長さ 8 寸、幅 2 寸、厚さ 1.2 寸 所要枚数 68 枚

IV) 沈子 鉛製圓筒型 20 匁、所要個数 42 個

V) 其他 浮子結付糸 綿糸 12 號、間結糸 綿糸 8 號、ハカイ糸 綿糸 15 號、沈子棚吊手 綿糸 20 號

以上圖示したものが第 3 圖である。尙此の設計に依る鮭鱒流網の諸材料所要量を表示すれば第 1 表の如くである。

Table 1. 諸材料所要量表

材 料 名	品 種	單位	1 所 所 要 量	1 反 當 所 要 量	備 考
浮 子 棚	マニラ岩糸撚 12 匁 右	封 度		3.18	} 1 本の長さ 31.8 間
同 上	マニラ岩糸撚 12 匁 左	同 上		3.18	
沈 子 棚	マニラ岩糸撚 18 匁 右	同 上		4.62	} 1 本の長さ 30.8 間
同 上	マニラ岩糸撚 18 匁 左	同 上		4.62	
浮 子	桐材 8 寸×2 寸×1.2 寸	個		68	
沈 子	鉛圓筒型 20 匁	同 上		42	
浮子結付糸	綿糸 12 號	尺	5.1	68ヶ所分 346.8	41.269 匁
間結糸(浮子の両端)	綿糸 8 號	同 上	0.83	136ヶ所分 112.88	} 18.510 匁
同上(浮子と浮子との中間)	同 上	同 上	0.55	70ヶ所分 38.5	
同上(沈子の結付)	同 上	同 上	0.57	146ヶ所分 93.48	
ハカイ糸	綿糸 15 號	同 上	1.5	49ヶ所分 73.5	10.930 匁
沈子棚吊手	綿糸 20 號	同 上	5.0	40本分 200.00	40.640 匁

但し 1 間とは曲尺 5 尺の意味である。

第 2 章 調査の概要

第 1 節 漁況について

漁況については全漁期を通じて各根據地毎に記録を蒐集し得なかつたので盛漁期の操業海區である釧路厚岸沖合に限定される事になる。概して漁況の盛衰は後記する如く海況諸要因との関連性が深く一概には論じ難いが斯る事象は凶漁年程明確を極めておるように思料される。

今昭和 24 年度に於ける盛漁期について見れば通常罹網率 3 尾以上の好漁であり出漁範圍も距岸 20 哩内外の海區を主漁場とした。此の間幾多の適水帯と思惟される流れに達着するが斯うした極

く沿岸の水帯では思わしい結果は見られなかつた。

亦昭和25年度に於ては寒流勢力が著しく一應適温水帯と思料される水塊が容易に接岸せず従つて漁場は遠隔となり航続能力のある大型漁船のみが成果を見ただけで漁期の大半を経過せしめ6月下旬となり漸く活況を呈したが短時日を以て終漁となつた。

即ち漁期の推移及び漁場の形成は海況諸要因に依り左右される事は勿論であるが少くも鮭鱒の如き洄游魚については適水帯としての大きな水塊がありその流れる状況に依り漁況が大きく左右されるものと考えられるので此の種水塊の究明に努めている。

第2節 水温について

概して魚群の來游々去及び粗密の度合等は其の水界の環境に依り支配されることは上述の如くで海區に依り適温相異し其の範圍も亦廣範に亘つている。

過去の例に徴しても3~4月頃道南では水温が3~4°Cに上昇して來ると櫻鱒が沿岸の定置網で漁獲され時日の経過と相俟つて樺太鱒が加つて來る。更に5~6月になれば相當量の鮭を混じた鱒の大群が此の道東海區に現れ流網漁業を形成するに到る。

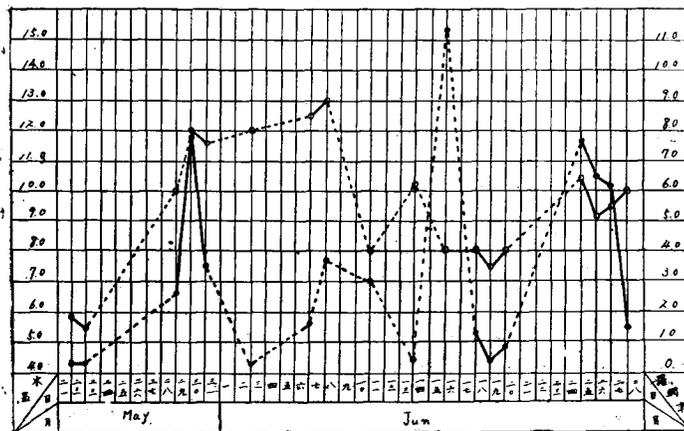
今調査表に依れば鮭は4°C以上となつて來游が見られ表面水温8°Cとなるに及んで最も良く見られ以後水温の上昇と相俟つて減少している。

此の最盛期の頃沿岸近くの冷水帯では漁獲こそ少いが鱒に比して罹網率の良好なることは再三見受けられる現象である。

亦鱒についても初漁期に於ては同様の事が言い得るが漁期の進展に伴い8°C前後の水帯が現われるようにならなければ芳しい漁獲成績は認められなかつた。斯くして8°C前後の水帯が見られる頃即ち6月上旬以降となつて來游状況も活潑化し6月中~下旬となり8°C~11°C水帯に見舞れて盛漁期となり更に水温の上昇に伴い較類の罹網が目立つようになつて散漫となり續いて終漁となつている。

以上は主として表面水温についてであるが中層水温の分布状況も可成の関連性を有することが考えられるが未だ明確ではない。尙時として餌料を追い水温に関係なく來游している例も見受けられた。

Fig. 4. 水温と漁獲の關係圖
(昭和25年度 附屬艇)



● 温度
○ 漁獲

第4~6圖は附屬艇毎に見た水温上昇と漁獲の關係を示したものである。

第3節 游泳水層について
一般に鮭鱒屬の此の時期に於ける游泳深度については未だ詳かではないが概して表面乃至はその近くであることは推定される

即ち水温について既記の如く漁期の未だ熱せざる時期に於ては鮭の罹網が概して良好なるため比較的沈子方に多いが最盛期となつて鱒(樺太鱒)の罹網が壓倒的となるに及んでその殆

Fig. 5. 水温と漁獲の関係図
(昭和25年度 附属艇第1号)

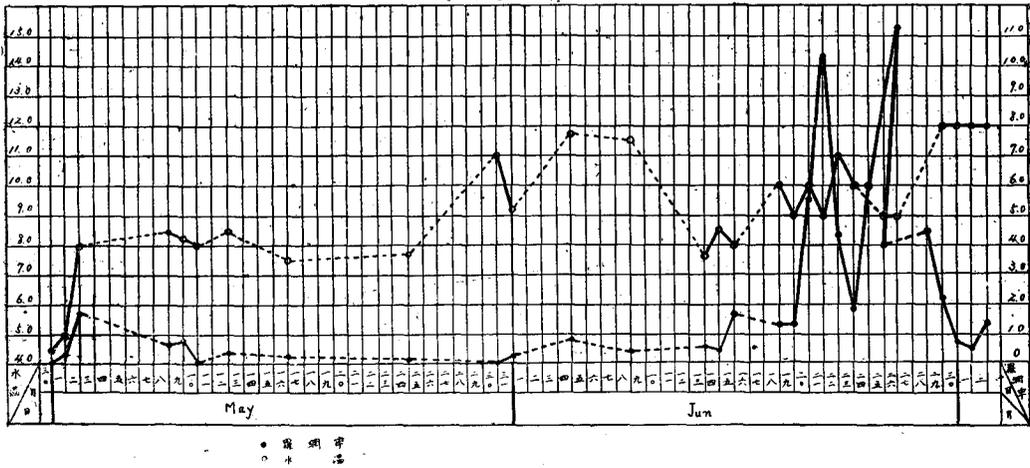
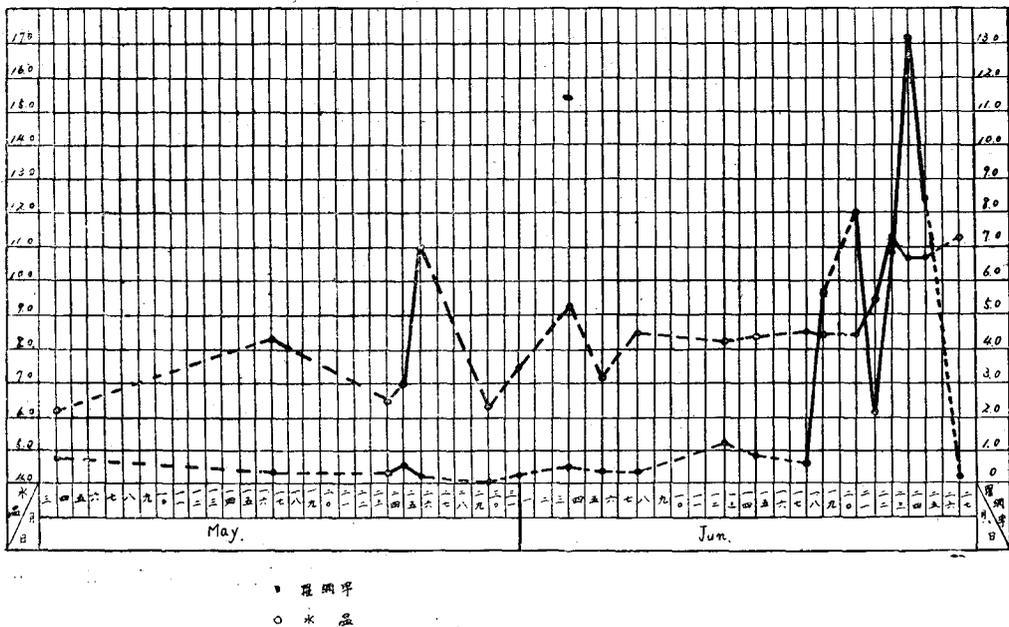


Fig. 6. 水温と漁獲の関係図
(昭和25年度 附属艇第2号)



どが浮子方に集中される傾向がある。

尚中層水温の分布より見て日中に於ける棲息層も餘り深層ではないと考え特別に製作した中層流網に依り若干實驗したが鰯以外は漁獲出来なかつた。

第4節 羅網方位について

漁場に於ける投網方位は漁船に依り必ずしも一様ではないが他船の操業防害及び流網の纏絡防

止等の點より習慣的に嚴守されている。

然るに投網當時の方位は其の後に於ける風潮に依り著しく變形されることが常であつて罹網方位の決定は甚だ困難ではあるが比較的陸岸に平行となつた場合は沖側より罹網する時に豊漁が多くその反對の場合は少い。亦比較的陸岸に直角となつた場合は四側より罹網する時に豊漁が多くその反對の場合は少い。

尙一側の卓越せざる雜然たる罹網傾向を示す場合は餘り豊漁時には見られないようであるが通常此の種のものが多い。

此の事實は投入された流網の形狀を考慮に入れる場合に参考的であらう。

第5節 海潮流について

鮭鱒流網漁業は日没頃の投網時より翌朝未明の揚網時まで最も理想的な測流板の如くに漂流するため投網及び揚網位置との相違から其の附近の流れを知り得る譯であるが當時この海區は濃霧發生の時期で船位決定の困難等により因より正確は期し得ないが此の大勢を知悉することは漁船の運用上必要である計りでなく操業上益することが尠くない。

今昭和25年度に於ける漁場の流れを調べて見れば第2表の如くであるが大勢は West~Nw 傾向の様である。

Table 2. 鮭鱒流網漁場に於ける海潮流 (昭和25年度)

附 屬 艇 第 1 號				附 屬 艇 第 2 號			
漁場番號	流 向	流 速	漁 場	漁場番號	流 向	流 速	漁 場
1	E S E	2.8	襟裳岬以東	1	SW/W	4.8	襟裳岬以東
2	S W	1.0	"	2	NW $\frac{3}{4}$ W	6.5	"
3	SOUTH	1.5	"	3	NW/W	4.3	"
4	"	"	"	4	NW $\frac{1}{2}$ W	2.8	"
5	W S W	3.5	"	5	NW/N $\frac{3}{4}$ N	2.0	"
6	S W	3.0	"	6	NW/W	2.1	"
7	"	"	"	7	NW/N $\frac{1}{2}$ N	1.5	"
8	S S W	1.5	"	8	W $\frac{3}{4}$ N	1.7	"
9	W S W	2.5	"	9	NW/W	3.8	"
10	"	5.0	"	10	W/S $\frac{1}{2}$ S	2.5	"
11	N W	"	"	11	W/S $\frac{1}{2}$ S	9.0	襟裳岬以西
12	NW/N	4.0	"	12	WEST	5.0	"
13	"	5.0	"	13	"	7.6	"
14	S W	9.0	襟裳岬以西	14	NW/N	9.8	"
15	N W	2.5	"	15	WEST	5.7	"
16	"	5.0	"	16	"	4.5	"
17	"	9.5	"	17	NW/W	6.3	"
18	"	"	"	18	NW/N $\frac{3}{4}$ N	6.8	"
19	W N W	8.5	"	19	W/S $\frac{1}{4}$ S	3.5	"
20	N W	8.0	"	20	WEST	5.0	"

註 Ⅰ) 流速は投網時より揚網時までの移動距離とする。時間は操業日誌に示す。
Ⅱ) 漁場位置は操業日誌及び漁場圖参照

第6節 漁期、漁場について

最近漁業用諸資材の窮迫に伴い従來の如き餘裕のある操業等は到底覺束なく舊來の慣習その儘を移行墨守することは許されなくなり合理的な操業を餘儀なくされて來ている。

茲に我々は最低の経費と最小の努力を以て最大の漁獲を擧げ得る方途について考究せねばならない。

前節までに見られる如く鮭鱒流網漁場の形成は相當早期に始まり且長期に亘つているが斯る期間をそのまま漁期として利用し得るか否かについては多くの疑問を含んでいる。

即ち最も効果的に思料される範圍（盛漁期）を計算し年に依る變動は予め補正し得るようにならなければ合理化された操業は望み得ないと考えられる。當海區に於ける盛漁期の範圍についての計算例は後日述べることにする。

第7節 考 察

I) 水温については漁獲との明確なる關係は未だ認められない。推察する所鮭鱒等の浮游魚は一つの大きな水塊（適水帯）の流れに左右された水温のみならず他の多くの海況要因と密接なる關係を有するものと考えられる。尙餌料を追い14°Cの水域で好漁を續けた事實のあつたことは見逃し得ないことである。

II) 游泳水層は羅網傾向より見て餘り深所ではない様である。靜穩なる海上では日没頃鮭鱒の游泳するを目撃することは稀ではない。斯る考えの中に濃霧の日を選び晝間に於て特製の中層流網を試験して見たが鮫以外の漁獲は見られなかつた。

III) 使用漁具については操網上の利便を考慮して設計造作しなければならない。即ち操業中切斷若くは修理のため取外さなければならぬことあり、或いは投網した流網が1本の棒状となり1反毎に取外し之を解く場合あり或いは日乾のため陸揚すること等に依り1反の大きさも自然制約を受けることになる。亦1反の容積大となれば積載反數にも制約を受ける結果となるので網類及び浮子沈子類はその價値を損せざる範圍に於て最少となすべきである。

尙全般的には巾よりも長さの方向への考慮が必要であり且棒状を防止するため浮沈子の網及び縁網には然のないものを使用すべきである。

IV) 羅網方位を調査しておくことは漁船の密集著しくなり或は當時の風潮に依り必然の投網をなす場合等に於ても恩惠の蒙ることが多い。

V) 當海區に於ける鮭鱒流網時期は濃霧發生の時期に當り陸上物標の望見が出来ない。従つて漂流中の移動範圍を知ることは漁船運用上必要なことである。

尙海潮流の大勢を知悉することは操網上の利便が多い。

VI) 漁期、漁場については先づ主漁場たる海區に付き最も効果的な範圍を計算しなければならない。

即ち主漁場は盛漁期の廣さが相當長期間に亘り平均羅網率が高度であり併せて根據地への利便が多い海區でなければならない。

結 言

以上昭和24~25年度に於ける關係分についてその調査経過を述べたがその悉くは簡単に結論付けられるものはなく今後の調査に俟たなければならない。

唯掲げた關係圖表に依り斯業の大勢を判する一資料となれば幸甚である。

尙調査項目については未だ不備であるため此の點に關しては今後の調査と相俟つて是正したい

附表、第1表 (1)

漁場番 出漁月日	1 may 21	2 may 22	3 may 28	4 may 29	5 may 30	6 jun.2	7 jun.7	8 jun.7	9 jun.10	
投 網	位置	lat. 42°-53.5'N long. 144°-23'E	lat. 42°-54.5'N long. 144°-19'E	lat. 42°-22.5'N long. 141°-15.0'E	lat. 42°-22'N long. 141°-15.5'E	lat. 42°-15'N long. 140°-15'E	lat. 42°-32'N long. 140°-44.5'E	lat. 42°-19'N long. 141°-11'E	lat. 42°-20'N long. 141°-18'E	lat. 41°-44.5'N long. 143°-03.5'E
	方向	North	NW	SE	NW	SW	NNW	SE	West	NNW
	反数	15	15	15	20	20	10	20	20	35
揚 網	位置					lat. 42°-18'N long. 141°-03'E	lat. 42°-27'N long. 141°-46.5'E	lat. 42°-17'N long. 141°-0.6'E	lat. 42°-18'N long. 141°-12.5'E	
	方向					East~NE	SSE	West	WSW	SE
	反数	15	15	15	20	20	10	20	20	17
海 況 概 要	天候	B	B	B	B	BC	BC	BC	B	BC
	気温									
	水温	5.9	5.5	10.0	12.0	11.7	12.0	12.5	13.0	8.0
	気圧	1005.2	1004.6	1010.0	1015.7	1018.6	1013.9	1014.6	1011.9	1013.3
	風向	SE	SE	SW	NE	ENE~NE	SSE		NE	ESE
風力	1	1	2	2	3	1	Calm	2	2	
漁 獲 物	鮭	3		39	120	45	4		1	7
	鱒	1	4		38	25		33	36	44
				1	1			1		20
羅網傾向	陸岸側に羅網せり	浮子方に多く1ヶ所に集團せり	殆ど東側よりで沈子方に多し	陸岸程羅網良好なり	概して浮子方に多し	西側より羅網多く中層以上に多し				
備考								天候急変し漁網18反流失せり	投網沙目に互り網形著しく亂る	

附表、第1表 (2)

10 jnn.13	11 jun.15	12 jun.17	13 jun.18	14 jun.19	15 jun.24	16 jun.25	17 jun.26	18 jun.27
lat. 41°-42.3'N long. 143°-08'E	lat. 41°-50'N long. 144°-17.5'E	lat. 41°-47'N long. 144°-12.5'E	lat. 42°-50'N long. 144°10.5'E	lat. 42°-46'N long. 144°-24'E	lat. 42°-55.5'N long. 144°-22'E	lat. 42°-45'N long. 144°-24.5'E	lat. 42°-45'N long. 144°-24.5'E	lat. 42°-45'N long. 144°-24.5'E
North	SE	NW	NW	NW	ESE	South	NW	South
21	21	21	21	21	21	21	21	21
NE	N/E~S/W	West~East	East	SW	West~East	SW		
21	21	21	21	21	21	21	21	21
C	C	C	C	C	C	B	C	B
10.2	8.0	8.0	7.5	8.0	10.4	9.2	9.5	10.0
1010.6	1010.6	1015.3	1021.2	1021.6	1014.0	1019.3	1019.1	1016.8
West	SE	E/N	SE	SE	ESE	SSW	ENE	East
1	1	2	2	2	1	1	3	2
1	14	13	6	17	126		2	1
6	218	12	1		32	133	126	29
	6				1			
浮子方に多く且その殆どは生きておつた	沈子方に多くその殆どは生きておつた		沈子方に多し		沖合程良好且浮子方に多し	浮子方に多し		

附表、第3表 (1)

漁場番號 出漁月日	1	may 3	2	may 16	3	may 23	4	may 24	5	may 25	6	may 29	7	may 31	8	jun.3	9	jun.5
投網	位置	lat. 42°-22'N long. 141°-15'E	lat. 42°-23'N long. 142°-00'E	lat. 42°-07'N long. 142°-28.5'E	lat. 42°-08'N long. 142°-27'E	lat. 41°-52.5'N long. 142°-30'E	lat. 42°-00'N long. 143°-00'E	lat. 42°-08'N long. 142°-40'N	lat. 42°-09'N long. 142°-40'E	lat. 42°-08'N long. 142°-31'E								
	方向	NW/N	North	N/E	NE/E	NE	NE/N	N E	NE/N	NE								
	反數	56	51	51	51	51	51	51	22	51								
揚網	位置	lat. 42°-21'N long. 141°-10.5'E	lat. 42°-26'N long. 141°-53.5'E	lat. 42°-10.3'N long. 142°-25.4'E	lat. 42°-10'N long. 142°-24'E	lat. 41°-54'N long. 142°-29'E	lat. 42°-01'N long. 142°-18'E	lat. 42°-09'N long. 142°-35'E	lat. 42°-09'N long. 142°-38'E	lat. 42°-10'N long. 142°-26'E								
	方向	SE	North	NE	SW/W	South	West	West	NE/E	North								
	反數	56	51	51	51	51	51	51	22	51								
海況氣象概要	天候	C	C	B	B	B	B	B	B	R	R							
	氣温	9.5	9.8	9.5	12.5	12.0	9.2	12.0	11.0	9.7								
	水温	6.2	8.3	6.5	7.0	11.0	6.3	7.5	9.2	7.1								
	氣壓	1011.0	1004.0	1014.0	1014.0	1013.0	1003.0	1005.0	998.0	998.0								
	風力	NW	N/W	West	WSW	SE	East	SE	NNW	NW								
風向	1	2	2	1	1	1	1	1	2									
漁獲物	鮭		1	14	19	4	0	4	7	9								
	鱒	43	14	2	9	5	0	8	3	6								
				21				12	6	11								
羅網傾向																		
備考	投網 18h-45m 揚網 08h-30m	投網 19h-30m 揚網 07h-45m	投網 20h-00m 揚網 07h-00m	投網 19h-25m 揚網 06h-20m	投網 20h-00m 揚網 06h-20m	投網 20h-00m 揚網 01h-10m	投網 19h-30m 揚網 05h-40m	投網 19h-00m 揚網 05h-30m	投網 19h-15m 揚網 06h-15m									

附表、第3表 (2)

10	jun.7	11	jun.12	12	jun.14	13	jun.17	14	jun.18	15	jun.20	16	jun.21	17	jun.22	18	jun.23	19	jun.24	20	jun.26
	lat. 42°-02'N long. 142°-56'E	lat. 42°-09.5'N long. 144°-00'E	lat. 41°-55'N long. 143°-50.5'E	lat. 42°-41.5'N long. 144°-0'E	lat. 42°-33'N long. 144°-35'E	lat. 42°-34'N long. 144°-30.3E	lat. 42°-42.6'N long. 144°-25'E	lat. 42°-31.6'N long. 144°-33.8E	lat. 42°-36.3'N long. 144°-29.5E	lat. 42°-37.8'N long. 144°-30.2E	lat. 42°-31'N long. 144°-11'E										
	SW½S	ESE	West	North	SSW	W/N	S/E	NW/W	N½W	NW	NW/N										
	51	51	51	40	50	30	50	50	50	50	50										
	lat. 42°-0.3'N long. 142°-53'E	lat. 42°-06'N long. 143°-49'E	lat. 41°-54.5'N long. 143°-44'E	lat. 42°-41'N long. 145°-30'E	lat. 42°-41'N long. 144°-26.5E	lat. 42°-33.5'N long. 144°-22'E	lat. 42°-41.7'N long. 144°-20'E	lat. 42°-34.4'N long. 144°-26.2E	lat. 42°-42.4'N long. 144°-26.4E	lat. 42°-36.5'N long. 144°-27.7E	lat. 42°-35.5'N long. 144°-04.5E										
	NW	NE	NE	South	NE	South	SW	SE	SSE	SSE	South										
	51	51	51	40	50	30	50	50	50	50	50										
	B	F	R	BC	R	R	F	F	C	C	C										
	8.5	11.1	11.0	10.5	9.8	9.8	9.5	11.4	12.4	13.1	14.0										
	8.5	8.2	8.3	8.5	8.4	8.4	9.3	11.2	10.7	10.7	11.2										
	1011.0	1008.0	998.6	1005.0	1007.0	1007.0	1008.0	1015.0	1012.0	1012.0	1012.0										
	E/N	SW	NE½N	East	E/N	E/N	SW	SE	SE	ESE	WNW										
	1	1	2	2	3	3	1	2	1	2	2										
	6	49	45	18	205	58	50	35	38	41	0										
	7	12	3	6	82	182	53	310	616	379	5										
							紅鱒 1		紅鱒 1		鱒 4										
	26	1	1	39	6	18	31	36	136	25	3										
	投網 19h-15m 揚網 06h-15m	投網 18h-40m 揚網 06h-15m	投網 18h-55m 揚網 04h-50m	投網 19h-30m 揚網 06h-50m	投網 19h-50m 揚網 07h-10m	投網 20h-30m 揚網 06h-35m	投網 19h-20m 揚網 06h-15m	投網 19h-10m 揚網 07h-15m	投網 19h-05m 揚網 07h-45m	投網 19h-35m 揚網 07h-40m	投網 19h-40m 揚網 06h-15m										

附表 第4表、昭和25年度鱒旬季別水揚高一覽 (單位貫)

		5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	合計
三浦幌廣白鋼厚霧落根齒花	石河泉尾	119.0	405.7	290.0				814.7
	幌泉尾	64.0	130.0	675.0				869.0
	廣尾			261.0				216.0
	白尾	56.0	145.0	335.0	46.0	845.0	17,150.0	18,577.0
	鋼尾		8.0			43.5	55.0	106.5
	厚尾	66.9	343.5	562.7		38,582.0	72,000.0	111,555.1
	霧尾	2.0	51.0	617.3	4,124.2	26,949.1	62,569.9	94,313.5
	落尾		1.0	2.0	810.5	2,541.0	5,603.9	8,958.4
	根尾			180.0	4,860.0	7,270.0	7,436.0	19,746.0
	齒尾			1,584.5	12,723.0	26,978.0	50,427.0	91,712.5
花尾			750.0	2,925.0	17,140.0	17,160.0	37,975.0	
					960.0	5,895.0	7,000.0	13,855.0
合計		307.9	1,084.2	5,257.5	26,448.7	126,243.6	239,401.8	398,743.7

附表 第5表、昭和25年度鮭時不知旬季別水揚高一覽表 (單位貫)

		5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	合計
三浦幌廣白鋼昆厚霧落根齒花	石河泉尾	124.0	220.8	178.0				522.8
	幌泉尾	325.0	150.0	2,200.0				2,675.0
	廣尾			861.0				861.0
	白尾	964.0	3,560.0	1,700.0	1,960.0	15,100.0	39,500.0	62,784.0
	鋼尾		135.0			12,881.9	435.0	13,451.9
	昆尾	1,671.5	2,711.3	1,460.7	3,305.7	22,906.6	64,000.0	96,055.8
	厚尾	3.0						3.0
	霧尾	1,200.0	1,150.0	3,100.0	15,260.5	40,584.6	68,682.5	129,977.6
	落尾	235.0	235.0	608.0	1,996.3	3,588.5	5,230.6	11,893.4
	根尾	1.5	1,847.0	2,800.0	8,110.0	8,750.0	10,308.0	31,816.5
齒尾	650.0	9,139.0	10,716.0	26,378.0	40,008.0	55,604.0	142,495.0	
花尾	200.0	2,960.0	5,166.0	3,395.0	18,110.0	14,980.0	44,811.0	
					4,075.0	6,550.0	5,740.0	16,365.0
合計		5,374.0	22,108.1	28,789.7	64,480.5	168,479.6	264,480.1	553,712.0

第4~5表は北海道水産試験場釧路支場の提供に依る

所存である。

附	表
第1表	昭和24年度 附 屬 艇 操 業 日 誌
第2表	昭和25年度 附 屬 艇 第1號 操 業 日 誌
第3表	昭和25年度 附 屬 艇 第2號 操 業 日 誌
第4表	昭和25年度 罇 旬 季 別 水 揚 高 一 覽 表
第5表	昭和25年度 鮭 (時不知) 旬 季 別 水 揚 高 一 覽 表

(水産科學研究所業績 第145號)